スクールホットライン

ものづくりへの夢 膨らむ

from 志水小学校

毎日のようにMRJについての話題を耳にするこの頃。十月二十五日に、三菱航空機株式会社の柳さんを講師にお招きし、五・六年生を対象に「MRJ出前講座」を行いました。

ベランダから飛行機をよく見ていて、初の国産ジェット旅客機の話を楽しみにしていた児童、飛行機が大好きでMRJの色が魅力的だと話す児童もいる中、講座が始まりました。最初は、「MRJは何の略かな?」という問いかけでした。正しくは、「三菱リージョナルジェット」ですが、「みなさんのリージョナルジェットと思ってください」と言われ、なるほどと納得。それから、全部で十一の質問を軸にMRJの魅力を存分に教えていただきました。

わずか五十分間でしたが、飛行機が大好きな児童も、あまり興味のなかった児童も、MRJが世界の空を飛びまわる未来への期待がぐっと高まりました。その後、「一機はいくらぐらいするのですか。」「MRJを完成するにはどんなことが大切ですか。」など、児童からのたくさんの質問にも丁寧に答えていただきました。

児童の感想を紹介します。

・少しはMRJのことを知っていると思っていましたが、出前講座では知らないことがたくさんあって、ますます興味をもちました。

・地元で作られたMRJが、こんなに世界に広がっていることにびっくりしました。もっといろいろなことを知って、いつか自慢したいです。

講座の最後は「MRJを作るには何が必要か」でした。答えは「夢」。ものづくりへの夢が膨らむ素敵な講座となりました。

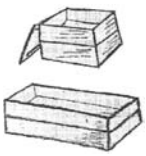
まなびすと

史料からひもとく 豊山 第9回

民具資料から「漆塗り木製重箱と切溜」、文書資料から「青い目の人形関係文章」を紹介します。

▽漆塗り木製重箱と切溜

両者とも現在では、石油化学製品が主流になってしまいましたが、本資料は旧来の漆塗り木製品です。



重箱(上)と切溜(下)

「重箱」は手軽な容器ですが、本来武家などの正式な物は、四季になぞらえた四段重ねで、立派な装飾がなされていました。

しかし、一般的に普及したものは二段、三段重ねです。

「晴れの日（お祝い）の料理入れ」としてよく使われたことから、お正月のおせち料理入れとして現在でも多くの家庭で活躍していることでしょう。現在おせち料理の宣伝によく使われる、「二段重・三段重」というのは、この重箱の数から出た単位ですから、「かさね」ではなく「じゅう」と読むのが正しいと思われます。

なお、人呼び（集会。お日待ちや行事など）の際、多量の料理を作るために、切った材料を一時的に溜めておく入れ物が切り溜（きりだめ）で、重箱同様漆塗り木製品で重箱より大きく、長方形をしています。

〈参考〉岩井宏實・監修『絵引民具の事典』

▽青い目の人形関係文書

後に「青い目の人形」と呼ばれる日米親善活動の文書で、趣意書（和文）、人形査證・ビザ、乗船券が揃っています。

本資料がこのときの人形と一体の文章であるかどうかは不明ですが、豊山尋常高等小学校の「日誌」（昭和2年）には「米国渡米のお人形を受け取り（四月二十六日・記）歓迎会を開催した（五月五日・記）」（主旨）と記載されています。

なお、日本では太平洋戦争中に、これらの人形の多くが「敵国の人形」として焼却処分されてしまいました。

青い目の人形：日露戦争後、日本と米国の間で政治的緊張が高まりました。そんな中、昭和2年、その緊張を和らげようと、米国人のS・ギューリック博士の提唱で、日本の子どもたちに一万二千七百三十九体の「青い目の人形」が全国の小学校に贈られました。

一方、日本からは渋沢栄一を中心に市松人形五十八体が答礼人形として米国に贈られました。（本項「青い目の人形資料館」ホームページより要約引用）

〈参考〉『書窓　平成二十三年六月号』